



“私のクラス”が見えてくる

尾形弘先生発 学級指導の ちえぶくろ

この冊子には、学級指導・学習指導においていつの時代も大切にしておきたい考え方やヒントがたくさん詰まっています。目の前の子どもたちの実態に合わせて“自分流”にアレンジして、よりよい学級づくりにお役立てください。

書き込み式で“私のクラス”が見えてくる
尾形弘先生のちえぶくろ

日文 教授用資料
平成31年(2019年)3月1日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33437

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

作・尾形弘

長く東京都にて教職に携わりながら、子どもの本質を見据えた指導を行う。定年を迎えた後も、清瀬市教育委員会「心と環境指導員」として、心の博物館や市立全小学校に環境博物館を開設する。

未来をにう子どもたちへ
日本文教出版

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

メッセージ

石堂 裕（兵庫県たつの市立新宮小学校）

本冊子は、尾形先生の学校現場での経験に基づいて整理されているため、共感したり納得したりすることも多いです。

学級指導において、子どもたちの行為の善悪をふり返る際や学習での心構えを理解させたい場合、低学年なら実際に「心の運転めんきょしょう」※1のようなアイテムを用いる、高学年なら子どもたちの実態に合わせてアレンジする、などして活用します。視覚的で具体的な説明は、子どもたちの心に響くはずです。

若い先生方には、学級づくりでの不易な「ちえぶくろ」として、中堅及びベテランの先生方には、子どもたちへの声かけや関わり方のヒントとして、多くの先生方に使っていただき、指導力の向上につなげてほしいです。

山中 昭岳（さとえ学園小学校）

先生という名の付く仕事は人の人生にかかわるものです。教師となった以上は、その人のこれからの人生を形成していく過程を見守るという重要な役割があります。ただ見ているだけではなく、観て、診て、そして視て守るのです。その点において不易なものが、尾形先生の「ちえぶくろ」です。

一方、現代に生きる教師は、本書の内容をただなぞるのではなく、必要に応じて改変していく力が必要とされています。本書は、不易なものを、今、目の前にいる子どもたちに合わせてつくり変えるなど、教師としての力量向上をめざした書となっています。

目の前の子どもたちと向き合い、本書と向き合い、目の前に現れた“正解が何かわからない問題”へと挑戦していきましょう。

八木 美香（東京都港区立芝浦小学校）

子どもは、目の前の先生に対して「こんな感じの先生」というイメージをもっています。ですから、この本には学級経営や授業での大切なことが詰まっていますが、そのまま実践すればよいとは限りません。それぞれの項で、何を大切にしたいのかと考えながら、子どもたちの実状や自身のキャラクターに合わせて工夫するとよいと思います。

例えば「まほうの紙袋」※2では、「紙袋」が必須なのではなく、「見えないところから突然現れる」ということがポイントだと考えられます。——休み時間に実物投影器の準備をしておいて、授業の始まりのあいさつが終わると同時に、スクリーンに子どもに見せたいものが突然映し出される——そんなやり方も良いかもしれませんね。

※1 = p.12に記載 ※2 = p.28に記載

もくじ

メッセージ	表紙裏
本冊子の使い方	2
学びに向かう第一歩「心のはくぶつかん」	4
◆「心のはくぶつかん」へようこそ	5
これからこんなことをご紹介します	
◆転ばぬ先のつえ	6
学期や学年のはじまりに	
◆ふしぎなめがね	8
普段の学級指導や1年生のスタートカリキュラムに	
◆おじゃまんとおたすけまん	10
普段の学級指導に	
◆心の運転めんきょしょう	12
普段の学級指導に	
◆心のたち切りばさみ	14
普段の学級指導に	
◆聞き名人のキキ	16
話し方・聞き方の基本	
◆ノンくんとハートさん	18
特に高学年にしておきたい脳と心の話	
◆ノンくんポスト	20
子どもたちとのつながりを深めるために	
◆なぜ学校で学ぶの？	24
もしものときに	
◆伝しよう遊び	26
“定番”の学習活動を始める前に	
◆まほうの紙袋	28
導入における工夫	
◆学級における掲示の工夫	30
環境づくりのポイント	
あとがきにかえて	32



本冊子の使い方

本書では、著者が長年にわたり実践してきた手だてを「ちえぶくろ」として紹介しています。この「本冊子の使い方」を参考にしながら、それぞれの状況に合わせて活用してください。

具体的な活用場面

各コーナーで紹介する内容の、具体的な活用場面を提示しています。

コーナータイトル

タイトルの下には、各コーナーの概要が記載されています。

ポイントとヒント

実践例を“実際の学級”で生かすための、著者によるヒントやポイントを記載しています。

実践内容

著者が子どもたちに向けて作成したアイテムなど、実践内容を具体的に紹介しています。文章は子どもたちに語りかけるような表現を用いています。

学級指導 普通の学級指導や1年生のスタートカリキュラムに

ふしぎなめがね

これは、子どもたちが「自分の心の中」を具体的にイメージできるように考えた、手づくりのめがねです。このめがねをのぞきこむと、自分の心の中にあるよいものや、そのよさをかき消す悪いものが見えてきます。

学級の状況に合わせてアイテムを使わないという場合も、このようなネーミングで話をするので、子どもたちは断然理解しやすくなります。

皆さんは、自分の心の中がどのようなになっているか、知っていますか？ ここに、自分の心の中が見える、少し変わっためがねがあります。

おもて おもてから見ると、普通のめがねですね。ちょっとかけてみましょう。

うら めがねをかけると、二つの目があなたの心の中を見つめています。

厚紙でつくっためがねの内側に、「自分を見つめる目」が付いています。目に立体感を出すために、目の裏側には円筒状にした小さな厚紙を貼り付けています。

★ 心の中のほうせき

心の奥に、星のようにキラキラとかがやいているものが見えます。やさしさ星、明るさ星、やる気星、勇氣星、夢や希望の星…。それぞれ星のように美しくかがやいています。この美しい星は、みなさんが生まれたときに両親から受けついだ、大切な宝ものです。赤ちゃんの目がキラキラとかがやいているのはそのためで、性格や気質をつくる大切なものです。

でも、赤ちゃんはその大切な宝を、すぐに役立てることができません。歩く、話す、まわりを見ることができるようになって、はじめて役に立ち始めます。

でも、役に立てる前に、必ずじゃまをする者があらわれます(p.10につづく)。

NOTE

＜先生方へ＞
本書は、各コーナーで示された手立てをもとに、先生が学級の実際に合わせて考え、アレンジして活用するためのきっかけづくりとなるよう意図して構成されています。もちろん、検討の結果そのまま活用しても構いません。以下は一例です。以降のNOTEは、考える際のメモとしてお使いください。

ポイント整理	実践イメージ	整理整頓させたい！
ふしぎなめがねは、自らを客観視するためのすぐれたアイテム！	↓	・ロッカーや机の中 ・乱雑な傘立て ・そろっていない靴箱 etc.
多様な子どもたちがいる現在、具体的に目に見える形で示し、本人に気付かせることが大事、という考えもある	↓	STEP 1 「理想的な状態」の写真をタブレット等で撮影し、大画面で学級全員に見せる。まず最初に「全体が揃っているか」と感じさせる。
タブレット等のICTツールを活用してみる！	↓	STEP 2 ピンときていない児童には、個別に全くない状態の写真を見せ、これかどうすればいいか、などを話させる。語れないときは、こうすれば気持ちがよいよ、と語りかけるように言う。
	↓	STEP 3 最後にきちんとできた様子も撮影して、これがいまだよ、と児童に認識させる（これが大事！）
		GOAL! 具体的に指示の必要な子どもも、自分の姿を見ることで具体的に修正すべき点に気付くことができる！

サンプル作成者：さとえ学園小学校 山中昭岳先生より

ふしぎなめがねは、自らを客観視するというメタ認知を促すアイテムです。成熟した現代社会において、自分が何者で、自分は社会にどんな役割を果たすことができるのか、ということを小さい頃から意識する機会が必要です。今、目の前にいる子どもたちはどうでしょう。一斉の指導がなかなか受け入れられない現状があるのではないのでしょうか。このふしぎなめがねの発想を今の技術と掛け合わせることで、多様な子どもたちへと対応できるツールへと進化するのはないでしょうか。

NOTEの使い方

いくつかのページにはNOTE欄があります。各テーマごとに気付いたことや「自分の学級ならどう使うか？」といったメモを書き留めるなどして、活用してください (p.9では、使い方の実例を示しています)。また、NOTE欄がないページについても、「自分ならこう伝える」のように置き換えて読むことで、活用イメージがふくらみます。

思いを書き出す

p.7では、一度立ち止まり、目の前の子どもたちや学級の現状を思い浮かべながら「こんな学級になったらいいな」という思いを書き出して試みてください。

ひとくふう

アイテムを作成する際のポイントや使い方など、著者によるひとつのことポイントです。

転びめがねのつえ

転びめがねは、転ぶを予防するためのアイテムです。転ぶを予防することで、怪我を防ぐことができます。また、転ぶを予防することで、安心して遊ぶことができます。

★ 181文チャレンジ

転ぶを予防するために、181文を書きなさい。1日1文、毎日書いてください。

転ぶを予防するために、181文を書きなさい。1日1文、毎日書いてください。

転ぶを予防するために、181文を書きなさい。1日1文、毎日書いてください。

学びに向かう第一歩「心のはくぶつかん」

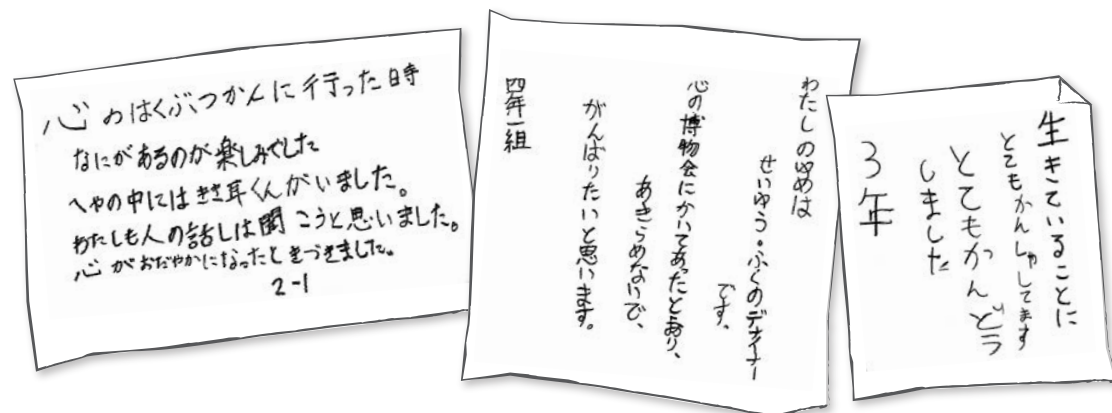
「心の中は見えない」

これは、児童が一樣に描いている心のイメージです。この抽象的でつかみどころのない心の仕組みを、具体化してわかりやすく理解すれば、心のもち方や学習意欲が格段に高まるのではないかと。また、自分に向き合い自発的に物事に取り組むことができるようになるのではないかと。

こうして児童が見たいと望んでいる心のしくみを創作して展示したのが、「心のはくぶつかん」です。本書はその実践を抜粋し、具体的な活用例も交えながらご紹介したものです。

ここでは、児童が抱く夢や希望、抱える悩みや疑問などあらゆることに応じられるよう、また、何より楽しく学ぶことができるよう、工夫を凝らしてあります。展示物(手立て)は、児童一人ひとりが自分のこととしてとらえることができるように指示的ななげかけを避け、自分の心が自分に語りかける方法を用いました。

心のはくぶつかんは、自由に学ぶことができる児童の空間です。子どもたちの学びに向かう扉を、いっしょに開けてみませんか。



※実際に「心のはくぶつかん」を訪れた生徒の感想

「心のはくぶつかん」へようこそ

私はこれまで空き教室やフリースペースなどを活用して、このような博物館をつくって実践してきました。これから、ここにあるような手立てをわかりやすく紹介していきます。みなさんも、学級でアレンジして使ってみてくださいね。



転ばぬ先のつえ

はくぶつかんの入口を見上げると、「転ばぬ先のつえ」と書かれた大きなつえがあります。最初にこの「つえ」の意味を考えると、子どもたちの学びが始まります。※ここでいう「転ばぬ先のつえ」とは、これから始まる学級において、先生が子どもたちとどんなクラスにしていきたいかを考えることを指しています。



4月に学級づくりの第一歩として、こんな話をするのもいいでしょうね。先生がこんな学級にしていきたいということを語りかけるのもいいと思いますよ。学級の「つえ」を、みんなで話し合ってみてください。



考えが奥深く、何ごとにも通ずるはかり知れないちえのことを「英知」と言います。このつえはみなさんに語っています。

「うちゅうの星には、命のたねがぎざみこまれています。天上にかがやく星のかけらが集まって地球が誕生し、地球にふりまかれた命のたねによって生物が生まれました。はるか遠く、生物の進化によって人類が生まれ、進化がくり返されて、今の人間社会があるのです」と。

地球の生物は、それぞれ役割をもって生きています。小さな虫から大きなゾウまで、すべての動植物がともに生きることで、地球が成り立っているのです。それなのに、ちえや心をもっている人間が、自分たちの都合だけで自然をこわしています。小さなアリに言葉があれば、きっとこう言うでしょう。

「ちえのある人間が、どうして自分から地球をこわしているの?」と。

人間は、心と100万馬力のパワー（ちえ）があるつえを持っています。心とちえをよせ合えば、地球の命を救うことができます。

これからながく未来に生きるみなさんへ。よく学び、みんなと仲良くし、かけがえのない命を大切にしてください。これから身に付けるちえは、必ず皆さんを助けてくれるものです。

さあ、この「転ばぬ先のつえ」をくぐって、先人の英知を学んでください。



★ 1日1文チャレンジ

明るく楽しい学級には、誰もが話しやすい雰囲気があります。1日1回、自分の思ったことや考えたこと、疑問に思ったことを発言できると、そういう雰囲気の学級をつくることができます。授業中だけでなく、朝の会やおわりの会でも、発言の機会をつくってみましょう。

また、これからの学習では、見通しと振り返りが大切です。1日を振り返り、次につながる課題をそれぞれが書いてみるのもよいでしょう。

そういったことを私は、「1日1文チャレンジ」として実践してきました。

どんなことでも、みんなで決めて続けることが大事です。

〈先生方へ〉

先生方もここで一度立ち止まり、今日の前にいる子どもたちのことや、こんな学級にしたいという思いなどを、自由に書き出してみてください。

こんな学級になったらいいな



学級指導
 普通の学級指導や
 1年生のスタートカリ
 キュラムに

ふしぎなめがね

これは、子どもたちが「自分の心の中」を具体的にイメージできるように考えた、手づくりのめがねです。このめがねをのぞきこむと、自分の心の中にあるよいものや、そのよさをかき消す悪いものが見えてきます。

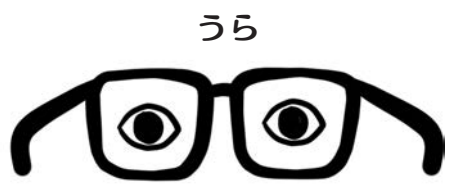


学級の状況に合わせてアイテムを使わないという場合も、このようなネーミングで話をするので、子どもたちは断然理解しやすくなります。

★ 皆さんは、自分の心の中がどのようなになっているか、知っていますか？ ここに、自分の心の中が見える、少し変わっためがねがあります。



おもてから見ると、普通のめがねですね。ちょっとかけてみましょう。



めがねをかけると、二つの目があなたの心の中を見つめています。



厚紙でつくっためがねの内側に、「自分を見つめる目」が付いています。目に立体感を出すために、目の裏側には円筒状にした小さな厚紙を貼り付けています。

★ 心の中のほうせき

心の奥に、星のようにキラキラとかがやいているものが見えます。やさしさ星、明るさ星、やる気星、勇気星、夢や希望の星…。それぞれ星のように美しくかがやいています。この美しい星は、みなさんが生まれたときに両親から受けついで、大切な宝ものです。赤ちゃんの目がキラキラとかがやいているのはそのためで、性格や気質をつくる大切なものです。

でも、赤ちゃんはその大切なたからものを、すぐに役立てることができません。歩く、話す、まわりを見ることができるようになって、はじめて役に立ち始めます。

でも、役に立てる前に、必ずじゃまをする者があらわれます(p.10につづく)。

＜先生方へ＞

本書は、各コーナーで示された手立てをもとに、先生が学級の実態に合わせて考え、アレンジして活用するためのきっかけづくりとなるよう意図して構成されています。もちろん、検討の結果そのまま活用しても構いません。以下は一例です。以降のNOTEは、考える際のメモとしてお使いください。

NOTE

ポイント整理

ふしぎなめがねは、自らを客観視するためのすぐれたアイテム！



多様な子どもたちがいる現在、具体的に目に見える形で示し、本人に気付かせることが大事、という考えもある



タブレット等のICTツールを活用してみる！

実践イメージ

整理整頓させたい！

- ・ロッカーや机の中
- ・乱雑な傘立て
- ・そろっていない靴箱 etc.

STEP 1



“理想的な状態”の写真をタブレット等で撮影し、大画面で学級全員に見せる。まず最初に「全体が揃っていると美しい」と感じさせる。

STEP 2



ピンときていない児童には、個別に良くない状態の写真を見せ、これからどうすればいいか、などを語らせる。語られないときは、こうすれば気持ちがいいよ、と語りかけるように言う。

STEP 3

最後にきちんとできた様子も撮影して、これがよい姿だよ、と児童に認識させる（これが大事!）

GOAL!

具体的に指示の必要な子どもも、自らの姿を見ることで具体的に修正すべき点に気付くことができる!

サンプル作成者：さとえ学園小学校 山中昭岳先生より

ふしぎなめがねは、自らを客観視するというメタ認知を促すアイテムです。成熟した現代社会において、自分が何者で、自分は社会にどんな役割を果たすことができるのか、ということをお小さい頃から意識する機会が必要です。今、目の前にいる子どもたちはどうでしょう。一斉の指導がなかなか受け入れられない現状があるのではないのでしょうか。このふしぎなめがねの発想を今の技術と掛け合わせることで、多様な子どもたちへ対応できるツールへと進化するのではないのでしょうか。

おじゃまマンとおたすけマン

p.8「ふしぎなめがね」の奥に見える、心の中を表したものです。ふしぎなめがねと右ページのアイテムをセットで使用すると、より効果的です。



人は誰でも弱い心をもっています。逆に、正しい判断ができる強い心も必ずもっています。私はそれを「おじゃまマン」「おたすけマン」と呼んで子どもに伝えていました。



ふしぎなめがねをかけると、あなたの心の中できらきらとかがやく宝石が見えました。でもそこに、きらめきをかき消そうとじゃまする者が現れました。

▶おじゃまマンしゅつげん!

じゃまする者の正体は、おじゃまマンでした。おじゃまマンは弱い心に住みついて、次々に悪いことや困ることを起こします。

子どもの頃は心が素直で、よいことも悪いことも、何でも心に入ってしまう。

ですから、おじゃまマンの出現によって勇気が弱気に、やる気がなまけ心というふうになり、生まれたときに受けついで大切なことが、みんな悪い方へと変えられてしまいます。それをふせぐためには、おじゃまマンに負けない強い心が必要です。



おじゃまマン

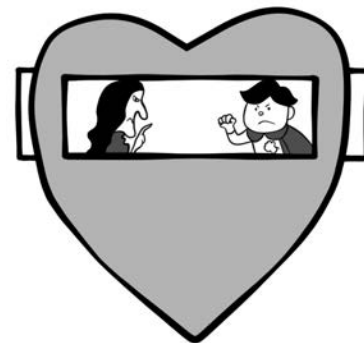
▶おたすけマンとうじょう!

おたすけマンは、みんなが心にもっている大切な宝石をまもるために働いています。おたすけマンが現ればもうだいじょうぶ。正義と悪を判断する力は抜群で、おじゃまマンを追い出す力は強力です。

ふしぎなめがねで見た力くらべの様子 (p.11) は、おたすけマンがおじゃまマンを追い出すところだったので。

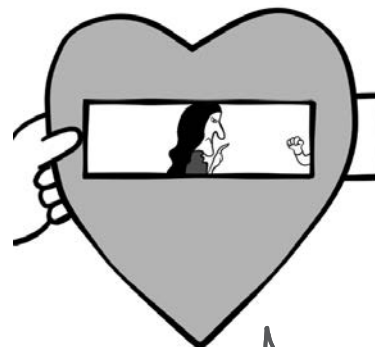
おたすけマンは、あなたの心の中にいつも住んでいます。あなたがやる気を出して心にさけば、すぐに現れて後押しをしてくれます。実はおたすけマンのような力は、あなたももっています。おたすけマンは、あなた自身なのです。

何ごとも、今が一番身に付くときです。おじゃまマンに負けないで、あなたの大切な星を守ってくださいね。



①

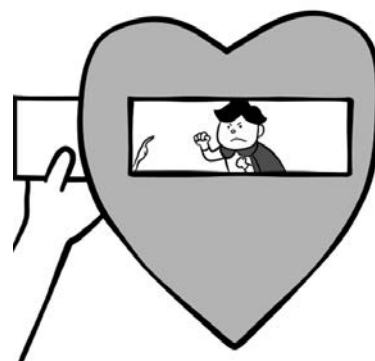
心の中におじゃまマンとおたすけマンが住んでいるのが見えます。



②

おじゃまマンがいばり出して、悪いことをしようとしています。

悪いことをしてしまったとき、つい正直に言えないこともありますよね。そういうときに、おたすけマンとして「素直で正しい気持ち大切です」と伝えましょう。それぞれの名前をみんなで付けてみるのもよいですね。

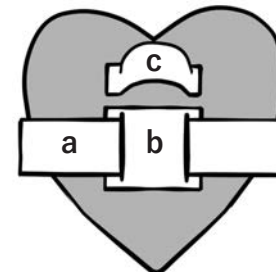


③

でも、だいじょうぶ。みんなが悪いことに負けないぞという強い心をもっていれば、おたすけマンはおじゃまマンをすぐに追い出します。



ひとくふう



裏面の仕組みです。おじゃまマンとおたすけマン (aの表側) が左右にスライドするよう、aに橋を渡すような要領で、厚紙を垂直に貼り付けます (b)。また、児童が手に取りやすいよう、厚紙で取っ手も付けます (c)。

NOTE

Blank lined area for notes.

心の運転めんきょしょう

子どもたちが気持ちをコントロールする方法を頭に描けるようにと、考えたアイテムです。始めはブレーキとハンドルのみでしたが、途中からポジティブな気持ちを後押しするアクセルも付けました。



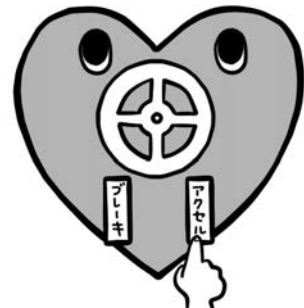
目標をもって取り組んでいるのになかなか一步を踏み出せない子には、「○○さんならできるよ」とアクセルを使って背中を押してあげましょう。また、「めんきょしょう」をもらった子たちは、ふとしたときに自分で気付くことができるようになります。

★ 心の中では、いつもよい心と悪い心が戦っています。次に紹介するものも、自分の気持ちをコントロールするのに役立つものです。



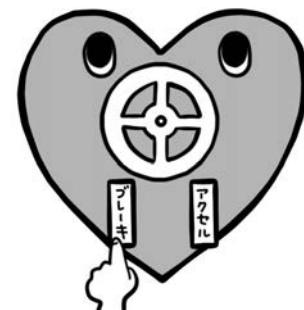
①

ハンドル、アクセル、ブレーキが動きます。自分が今していることをしっかり考えて、ハンドルでよい道を選びながら進みます。



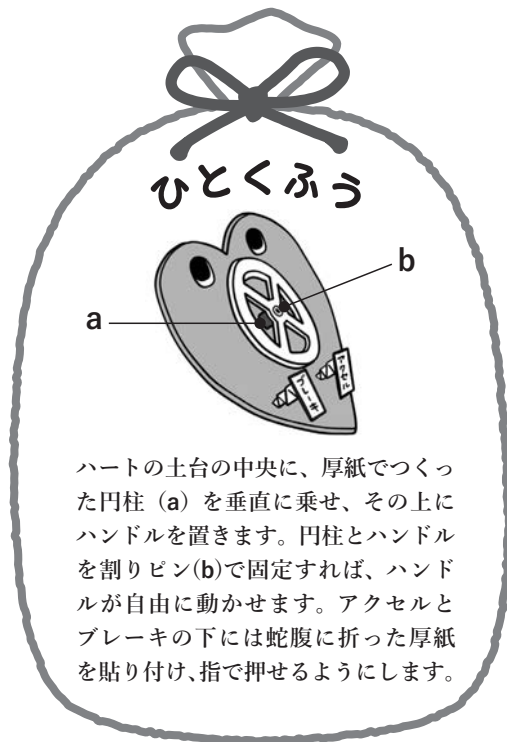
②

がんばるときには、アクセルをしっかり押します。



③

いけないときや危険なときは、ブレーキを強くおします。

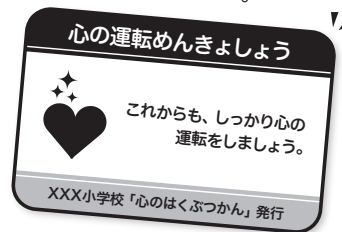


ひとくふう

ハートの土台の中央に、厚紙でつくった円柱 (a) を垂直に乗せ、その上にハンドルを置きます。円柱とハンドルを割りピン (b) で固定すれば、ハンドルが自由に動かせます。アクセルとブレーキの下には蛇腹に折った厚紙を貼り付け、指で押せるようにします。

めんきょしょう発行

心の運転体験をしたら、「心の運転めんきょしょう」を渡します。これからも、しっかり心の運転をしましょう。



★ 心を運転する

強い心と、心を運転する上手な技術があれば、決して弱い心に負けることはありません。

みなさん、心の運転めんきょしょうをもらっていますか？ その時々で気分で行動していると、心をうまく運転することはできません。でも、はっきりとした形のものを心にもっていると、運転がしやすくなります。

心の運転めんきょしょうは、正しく安全な行動ができるように、心を車の運転に置き換えて考えたものです。

いけないことを止めるのはブレーキで。

正しい道を選ぶのはハンドルで。

ここ一番と力を出すときにはアクセルで。

それを心にもっていると、「いけない!!」と思った瞬間、とっさにブレーキをかけることができます。また、ハンドルとアクセルを上手に使って、正しい道をまっすぐに進むことができます。人の流れや考えにまかせて歩んでいる人よりも、確実に早く、自分の目的に到着することができます。

みなさんも、この「心の運転めんきょしょう」を、いつも心の中に置いてくださいね。

NOTE

Blank lined area for notes.

心のたち切りばさみ

友だちとけんかした後など、気持ちの切り替えがうまくできないと、学習にも集中できなくなってしまいます。こんなふうにもやもやとしてしまったときに「嫌な気持ちを断ち切ってくれる」特別なはさみがあります。



手を大きくはさみのように動かして、「はい、ここでおしまいだよ」とするだけでも効果があります。けんかがおきてしまったときには先入観をもち、必ずどちらの言い分も聞いてあげてくださいね。その後にハサミを使うと、より効果が発揮されますよ。

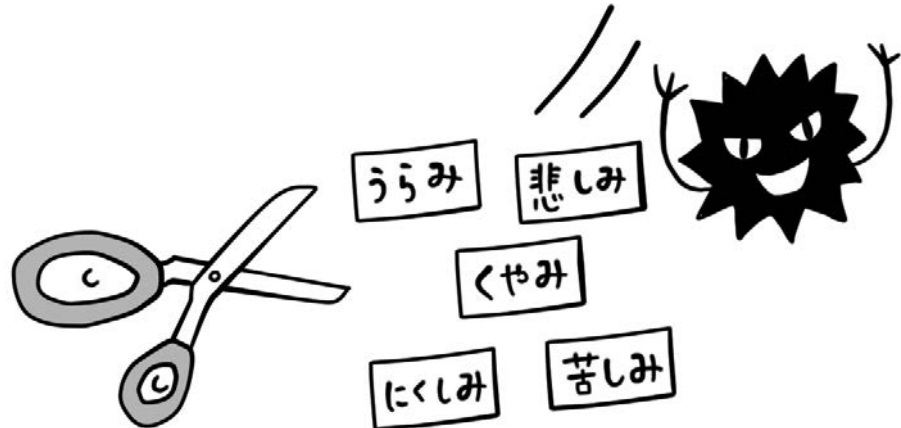


みなさんはいやなことがあったとき、心の中がずっともやもやしてしまうことはありませんか？ そんなときは、いやな思いをすぐにたち切りましょう。いつまでも心にもっていると、よいことはありません。前に進むことができないし、心がつかれてしまいます。

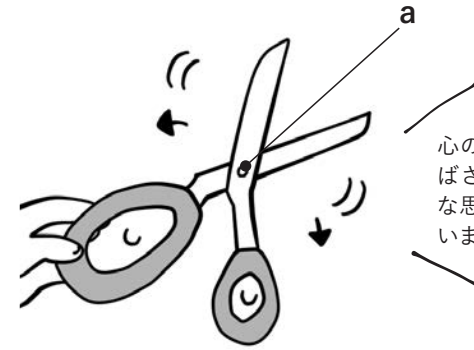
例えばけんかです。けんかがはげしくなると、相手をきずつけるよくない言葉がとびかいます。感情的になると、本心とは違う言葉が出てくることもあります。

そんな言葉を真に受けて気にし出すと、心から離れなくなってしまいます。だんだん腹が立ってきて、そのうちにうらみがわいてきます。そんな気持ちは、おじゃまん(p.10)が大好きです。「相手に仕返ししなさい」とそそのかすことがあります。でも、おじゃまんの言葉にしたがって行動すると、相手にけがをさせてしまうこともあります。お互いにとって、何もよいことはありません。

もしもけんかが始まりそうになったら、逆に楽しく遊ぶ方法を教えてあげましょう。けんかの気持ちがおさまって、きっと仲良しになれるですよ。



もし今いやな気持ちが心の中にあったら、このはさみを手に持って、チョキチョキカットしてしまいましょう。



心の中にこの「たち切りばさみ」を持って、いやな思いをたち切ってしまいましょう。



厚紙を「たち切りばさみ」の形にカットし、左右の指穴の中にはニコニコした表情の目を描きこみます。中心部に穴をあけたら割りピン(a)を差し入れ、裏側の爪を広げて固定します。これで、本物のはさみのようにチョキチョキと動かせるようになります。一般的な裁ちばさみより、ふたまわりほど大きくつくとよいでしょう。

NOTE

Blank lined area for notes, resembling a spiral-bound notebook page.

聞き名人のキキ

「話を聞く」ことは学習の基本ですが、じっと話を聞くのが苦手な子もいますね。そんなときは、集中して話を聞いているときとそうでないときの様子が比較できる、この人形が役立ちます。



視覚的に示すことで効果を得られます。低学年になるほど提示されたものの真似をしようとする傾向がありますので、より効果的です。ペープサートのような、もっと簡易的なものでもよいでしょう。

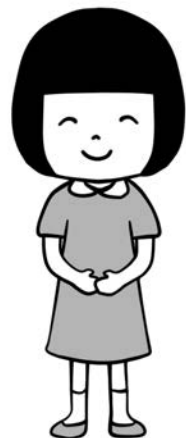
★ 話を聞くのが上手な人を「聞き上手」と言いますが、聞き上手は学習がよく頭に入る人です。

▶聞き名人のキキ

人には、感じる心は一つしかありません。ほかのことに心を奪われてしまうと、気が散ってしまい大事な話が心によく伝わりません。目・口・耳など心を一にして、集中して話を聞くことが大事です。

聞き名人のキキは、このようにして話を聞いています。まず、目をキョロキョロしないで相手をしっかり見ます。おしゃべりを止めて口をしっかりと閉じます。手足のいたずらやぶらぶら動きを止めます。心をこめて集中して聞きます。このようにして話を聞くと、話の内容がよくわかります。それができるので、この子は聞き名人のキキと呼ばれています。

また、ただ話を聞いているだけでは聞いたことにはなりません。うわの空で聞いているのは、話が空へ飛んでいってしまいます。話を心でしっかり受け止めて、話で学んだことを行動にうつせてはじめて、話が聞けたということになります。



▶話し名人のハナ

毎日の生活で話をしっかり聞いていると、話し方までしっかりできるようになります。

ハナはこのように話をしています。まず、相手に届くように、はっきりした声で話します。相手が話を聞き取れるように、落ち着いてゆっくり話します。伝えたいことがわかるように、短くまとめて話します。気持ちがしっかりと伝わるように、心をこめて話します。言葉づかいや顔のひょうじょうにも気をつけて話します。

こうして話がしっかりできると、相手にしっかり伝わります。だから、わからないことを聞いても、相手がていねいに教えてくれます。



この「聞き名人のキキ」を使って、どんな人が聞き上手なのかを体験してみましょう。

No!



キキが話を聞くときには、まわりをキョロキョロしません。

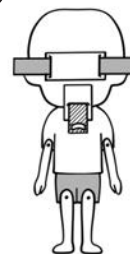
No!



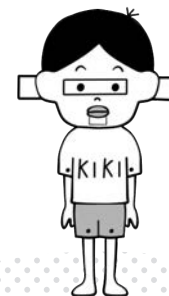
おしゃべりや、手足をブラブラ動かすのを止めます。

Good!

ひとくふう



目の部分はスライド式になっていて、p.11「ひとくふう」と同じ作り方です。手足の接続部分は割りピンで固定し、ぶらぶら動かせるようにします。



話す人をしっかり見ます。口を閉じます。手足のぶらぶら動きを止めます。こうすると話に集中できるので、話の内容がよくわかります。

ノンくんとハートさん

学習に密接なつながりのある脳と心の間を、子どもたちがイメージしやすいように「ノンくん (脳)」「ハートさん (心)」というキャラクターに置き換えて語りかけています。

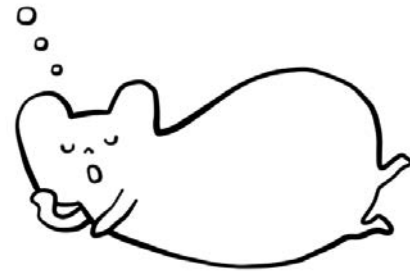


難しい内容でも、こうしてわかりやすい例えや言葉を使って説明すると、子どもたちがぐんと理解しやすくなりますよ。

★ あなたの中に住んでいる“脳のノンくん”と、“心のハートさん”は大のなかよしです。学んだことを記憶するのはノンくん、ノンくんに働きかけるのがハートさんの役目です。

脳は眠っている

人の脳には、すばらしい学習機能(力)が備わっています。そんなすばらしい脳をもって生まれてきたのに、使われている部分はほんの数十パーセントだそうです。眠っている部分をうまく使えば知識がたくさんたまるのに、もったいないことです。



そして、脳の中で使われていない部分がたくさんあると知って、ハートさんはやきもきしています。使わないままさびて、働かなくなってしまうことが心配だからです。

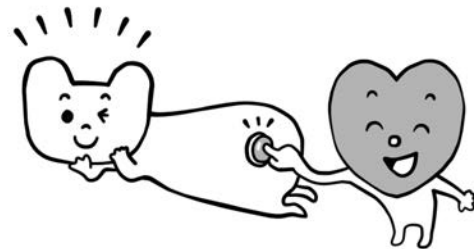
「このままでは宝のもちぐされになってしまうよー」

「すばらしい力を学習に使ってくださいー」

ノンくんは、みんなにそう語りかけているに違いありません。

ノンくんのスイッチを入れるのはハートさん

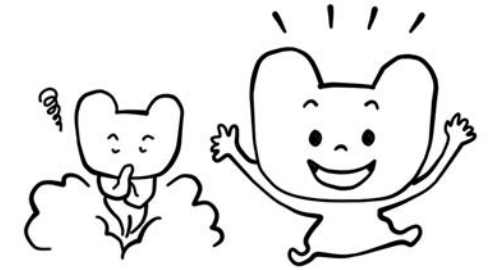
毎日ただ何となく過ごしては、脳の働きはよくなりません。「しっかり覚えるぞ」という意志が必要です。その心(ハートさん)の働きかけが脳(ノンくん)にスイッチを入れるのです。



脳も性能を高めようと、絶えず学習しています。脳の成長で一番大事なことは、よく考えることです。わかっている問題をくり返すだけでは、考える力にあまりつながりません。階段を一歩いっば上がるのと同じように、まだ知らない課題に、一つひとつチャレンジしていくことが大事です。その積み重ねが、考える力を高め、脳の働きをよくしていくのです。

ノンくんは変身名人

知識をたくさん増やしていくことは、とても大事なことです。でも、もっと大事なことは、何かを覚えようとするときこそ考える力がどんどん高まるということです。



だれでも、昨日よりも今日、今日よりも明日というふうに、成長したいと望んでいます。そのために「もっと覚えたい」「深く知りたい」と意欲をもちます。その意欲が出ると、ノンくんは「性能アップ!」と、より高い望みをかなえようと、すぐに変身を始めるのです。

心と感情のふしぎ(思いこみ)

全校集会などでみんなの前で話をするときに、緊張することがあります。緊張してしまって上手に話ができないこともあります。そんなとき、自分は弱い性格だと決めつけてしまうことはありませんか。そうすると、また同じことが起こるのではないかと不安になり、何事にも自信がもてなくなります。そんな思いこみは、よいことではありません。

みんなの前で起こる緊張は、うまく話せるだろうか、ちゃんと伝えられるだろうか心配のあまりに起こるもので、よりよくしようと真剣に、慎重に考えている人に起こる心の動きです。気が弱いどころか、心配りのできるすばらしい人なのです。

そんな心配りやさんでも、人前に出ることを何度もくり返しているうちに、少しずつ慣れてきて緊張しなくなっていくものです。そうして、ものおじせず堂々と話せるようになっていくと、今度は「自分は気が強いんだ」と思い始めるかもしれません。このように、気が弱い、気が強いというのは、気持ちのもち方でも変わっていくものなのです。

けがや事故を起こさないために

高い場所の上って見下ろすと、こわくて身がすくむことがあります。これは、自分の命を守るために自然に起こる信号です。でも、何かの上って挑戦するときなど、このこわさを克服しなければならないときがあります。

例えばプールです。だれでも最初は深い水の中に入るのをこわがります。泳げなければ命にかかわるからです。でも、練習を重ねて泳げるようになってくると、こわいという気持ちが薄れてきます。そして、水に慣れると水の中で遊ぶことが楽しくなってきます。

このように、慣れることは自信につながる大事なことです。同時に油断を呼び、けがや事故を起こす原因にもなります。ですから、慣れるほどに注意深く過ごすことが大切です。



ノンくんポスト

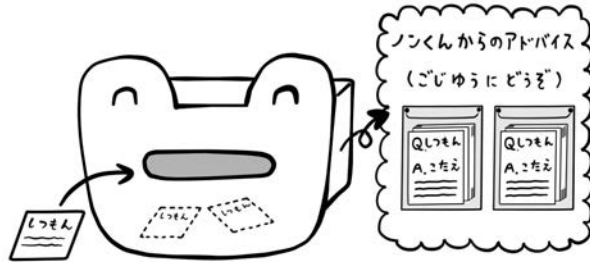
心のはくぶつかんの中には、子どもたちが日頃気になっていることなどを質問できるポストがあります。質問へのアドバイスは後日、印刷して掲示し、持ち帰るようにします。



子どもたちが悩みや疑問を気兼ねなく出せる環境をつくることも大切です。子どもは悩みを抱え込まずに済み、教師は児童理解を深めることができ、子どもたちとの結びつきが強まります。



普段気になっていることなどを紙に書いてノンくんポストに入ると、後でノンくん (p.18) からアドバイスが返ってきます。勉強のことや友だちのこと、どんなことでもいいですよ。質問とアドバイスは、ほかの友だちに役立つことかもしれないので、何枚か印刷して壁のポケットに入れています。自由に持ち帰ってくださいね。



Q1 どうすれば学習がよく身に付くようになるの？

A 学習は自分のもので、自分から学ぶものです。

だから、「覚えるぞ」という自分の強い気持ちがないと、よく覚えられません。

学校では、先生の話を聞くことから学習が始まります。聞きのがすと、学習の方法や内容がよくわかりません。だから学習で一番大事なことは、話をしっかり聞くということです。

次に、与えられたことをただやっけては進歩がありません。一つひとつの学習のねらいを読み取り、自分なりの学習方法を早く見つけることが大事です。



Q2 どうすれば学習の準備が上手にできるの？

A 「だんどり八分」という言葉があります。物事がうまくできるかどうかは、その準備にかかっているという意味です。

それだけ準備は大事なのです。学習も同じです。学習をするたびに道具を探しているのは、時間をむだにするだけでなく、学習の意欲もうすれてしまいます。

昔の人はよくこう言っていました。「暗やみの中でも道具がどこにあるかわかるように、整理整頓をしておくことが大事だよ」と。つまり、いつでもすぐに取り出せるように、何がどこにあるかわかるようにしておくということです。それを習慣にすると、いつの間にか、考えなくもその場所に上手に、整理整頓ができるようになります。きちんと整理整頓ができると、能率よく学習ができるだけではなく、学習の進め方や考え方にも、よい影響を与えます。



Q3 自信をもつにはどうすればいいの？

A 「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。だれでも好きなことには自分から取り組み、創意工夫をこらすので、どんどん上達するという意味です。

考えていることがうまくできたり上達したりすると自信が付いてくるものです。だから、得意なことや好きなことに、どんどん取り組んでほしいと思います。

途中でうまくいかないときも、あきらめたりなげやりになったりしないでください。あきらめないで取り組んだことは、ほかのことにもよい影響を与えます。同じように取り組めば、ほかのことでもよくできるようになるからです。そうすれば、ますます自信が付いてきます。

もう一つ大事なことは、自分に暗示をかけることです。なにごと「ダメだ」「できない」と悪い方に考えないで、「自分はできる」と暗示をかけるのです。そうすると、よい方に気持ちがたはらぎ、自信がわいてきますよ。





Q4 どうすれば仲良しの友だちができるの？

A 自分勝手に行動する人の周りには、人は集まりません。でも、周りの人のことを考えられる親切な人の周りには、人が集まります。だから友だちがふえます。

あなたは、困っているときにだれかに親切にもらって、その人をいい人だと思ったことはありませんか。きっと、仲良しの友だちになってほしいと思ったはず。だから、その気持ちを忘れずに、今度はあなたが相手に親切にしてあげればよいのです。困っているときや悲しいとき、親切にもらうことは一番うれしいことです。その人に心をひらけば、きっと仲良しの友だちになれますよ。ですから、まず自分から、相手のことを考えてあげることが大切なのです。



Q5 安全に過ごすには、どうすればいいの？

A 何をするときも、結果を考えながら慎重に行動することです。つまり、想像力をはたらかせようということです。

これは、教科の学習とも関係がある、大事なことです。学校には、事故やけがが起こらないように、たくさんの決まりがあります。どれも大事で、それぞれ意味があることです。決まりについて一つひとつ理由を考えられる人は、想像力のはたらく人です。そのような人は、自分から決まりを守り、安全にすごせるだけでなく、教科の学習でも、自分で答えを考えられる人です。決まりを守り、よく考えて行動すること。これが、安全に過ごす一番の方法です。



Q6 あいさつは、なぜ大事なの？

A あなたは人からあいさつをされて、元気や勇気がわいたことはありませんか。「おはよう」のひとことで、自分は一人ではないのだと、うれしい気持ちになったはず。

人と人が心を通わせるのに、短い言葉でこんなに通じる方法は、ほかにありません。友だちができるきっかけにもなります。家で、学校で、地域で、たくさんの人々が仲良く生活するために、あいさつはなくてはならないものです。勉強ももちろん大切ですが、あいさつがしっかりできることも、同じくらい大切なことなのです。



Q7 いじわるやいじめはなぜおこるの？

A やさしさや思いやりをもちましょう。いじわるやいじめは、絶対してはいけません。

いじめやいじわるは、相手の心をきずつけるだけでなく、学校で楽しく学ぶことができなくなってしまいます。人は一人ひとり、性格や考え方が違います。当然、自分のことが大事です。困ったことが起こると、自分を守ろうとする感情が自然にわいてきます。それをそのまま相手にぶつけると、衝突が起こります。また、衝突をきっかけに、相手にいやな感情をもつことがあります。それがいじめのたねになるのです。そんないじめのたねは、だれの心の中にもひそんでいるのですよ。いじわるやいじめをする人は、強い人ではありません。自分の心の中の“悪い芽”をつみとることができなかった、弱い人です。でも、心のもち方を覚えると心が強くなり、悪い芽をすぐつみとれるようになります。学校では、勉強だけでなくみんなと仲良く過ごす方法も学んでいるのですよ。



なぜ学校で学ぶの？

天気の良い日やちょっと嫌なことがあったときなど、子どもたちが前向きな気持ちで学校に行けない日もあるかもしれません。そんなときは、学校に通うとどんなよいことがあるかを一緒に考えてみるとよいでしょう。



「どうして学校に行かなければいけないの？」急に子どもからそんな質問があったら、教師はどのように答えたらよいでしょう。ここでは私の例を紹介していますが、先生方もぜひ一緒に考えてみてくださいね。

★ 学校で学ぶ理由

学校は、教科書の勉強をするためだけに通うところではありません。生きる力を身に付け、健康に育つために、いろいろなことを学ぶところです。そのために、学校では様々な目標がかかげられています。例えばこのような目標です。

- 「よく考える」
- 「ゆたかな心をもつ」
- 「健康な体をつくる」
- 「夢や希望をもつ」
- 「仲良く協力する」

学校では、このような目標に向かっていろいろな工夫をしています。先生方は、大切なことがよくわかるように、学年に合わせて順序よく、無理なく、やさしく教えてくれます。

また、学習の時間を区切って、たくさんの教科を、いろいろな教材や教具を使ってわかりやすく教えてくれます。体育館、音楽室、図工室、図書室など、教科に合わせて教室が分かれていて、楽しく学ぶことができます。しっかり学習を身に付けてから次の学年に進むことができるように、計画的に教えてくれます。

家庭では、自由に学べるよさがありますが、これだけの計画や準備ができません。また、目的ごとの教室もなく、先生方もいません。

このように、いろいろなことを楽しく安全に、計画的に学ぶために、学校があります。



みんなで学ぶ理由

人はみな、一人だけでは生活していくことができません。安全に楽しく生活するためには、助け合い、協力し合うことが大切です。そのために、みんなが集まって社会をつくっているのです。

学校でみんなで学ぶ理由の一つは、助け合い、協力し合う方法を学ぶためです。“学校も小さな社会”という考え方で、友だちどうしの体験を通して学んでいます。

運動会、学芸会などの全校行事や、林間学校、修学旅行、遠足などの校外学習。委員会活動やクラブ活動、そして学級づくり。学校は、楽しく住みやすい社会をきずくための、練習の場だと言えるでしょう。

もう一つの理由は、おおぜいで助け合いながら学習すると、お互いにより影響をたくさん受けるということです。みんなと楽しく会話したり、一緒に遊んだりすることで、一人でいるときよりもたくさんの経験や知識、社会性が身に付きます。



ルールを守る

みなさんはしっかり学ぼうと、毎日元気に学校に通っています。学校は一人ひとりにとって大事な場所です。「仲良く助け合って学びたい」これはみんなの願いです。おうちの人や先生がたも、そのように願っています。

それなのに、自分の思うようにいかないからと、周りの友だちが困るようなことをする人がいます。学校には、みんなで楽しく安全に過ごすために、大人の社会と同じようにルールがあります。みんなで学ぶために、ルールはとても大事です。

あなたが自分を大事だと思うように、周りのみんなも自分が大事です。もしも悪い気持ちが出てきたときには、「心の運転めんきょしょう」(p.12)を思い浮かべてください。「こんなことしたら、あの子はどう感じるかな？」と相手の気持ちに置きかえて、すぐに心のブレーキをかけましょう。

それでもブレーキがうまくきかないと感じたときは、先生に相談してみましょ。きっと安全な運転の方法をやさしく教えてくれますよ。



伝しよう遊び

ここでは、先人から受け継がれた伝統的な遊びなどを紹介します。便利な道具があふれる現代でも、かるたやすごろくといった昔ながらの遊びが続いているのは、理由があります。



ただ伝承遊びに取り組むということではなく、私は最初に欠かさずこういう話をするようにしています。先人から伝わる心や伝承遊びの価値を子どもが知ることに、大きな価値があります。



現代では、電子ゲームやパソコン、スマートフォンなど、身の回りには便利で楽しい道具や遊びがあふれています。それなのに、昔ながらの伝承遊びが今も続いています。それはなぜでしょう？

伝承遊びには、人のぬくもりがあります。手づくりの技があります。人と人がふれ合う楽しさがあります。自然や身の回りの物を使った親しみやすさがあります。そして何よりも、みんなで協力しながら仲良く楽しく遊ぶことができるように工夫がしてあります。昔の人は、遊びの中にも心を取り入れていたのです。子どもたちは遊びを通して心を学び、人と人のかかわり方を身に付けていました。自然や身の回りの物を大事にする知恵や技を学んでいました。

さて、現在はどうでしょうか？ 新しい機器には未来を切りひらくすばらしい力があります。しかし、機器に没頭して一人遊びが多くなると、人と人のかかわり方を忘れ、心を忘れてしまいます。

みなさんも伝承遊びをすることがあったら、ただ遊ぶのではなく、「人を大切にする心」「自然や物を大切にする心」など昔の人が遊びにこめてきた思いや願いについても、いっしょに考えてみましょう。

伝承遊びの実践例

①いろはがるた

- かるたの絵を現代風にかき替えます
- 見やすくするために、A4の大きさにかいて展示します



②すごろく

- 身近なできごとをテーマにしてつくります
- ジャンボサイコロをつかってみんなで楽しく遊びます



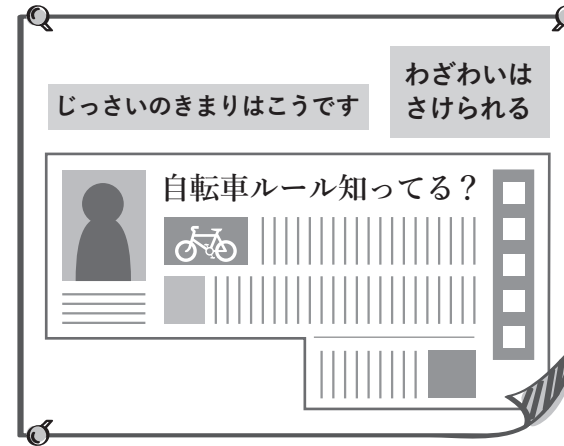
③廃材で遊ぶ

- 身の回りにある不要なもので、すぐに遊べるものをつくります
- みんなで楽しく遊べるものをつくります



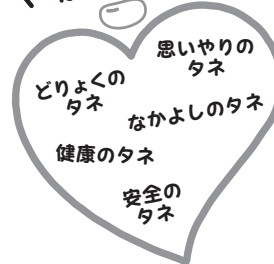
★いろはがるたで遊ぼう

※p.26「①いろはがるた」の掲示例

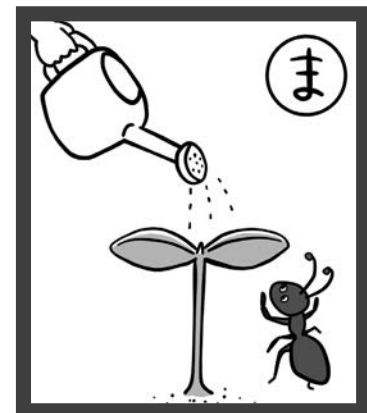
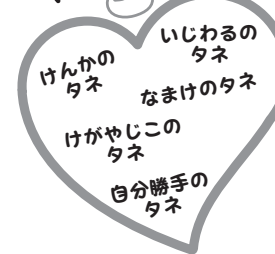


「きょうは人の身、あすはわが身」
「今、他人にふりかかっている災難は、人ごとではありません。次は自分の身の上にも起こることだと考えましょう」という、いましめ。

／ 明るいタネ /



／ 暗いタネ /



「まかぬタネは生えぬ」
心によいタネをたくさんまきましよう。美しい花をいっぱい咲かせましよう。

ひとくふう

各かるたの内容に関連した新聞の切り抜きや、理解を深めるための言葉を一緒に掲示します。子どもが自分で考えるきっかけになるような補足をします。

例えば国語の時間に取り組み、昔から伝わる方法や言葉に触れることで、より価値が生まれ、言語感覚を豊かにすることができます。

まほうの紙袋

子どもをいかに授業に引き付けるか？ これは指導者が常に抱える課題です。ここからは、心のはくぶつかんを出て普通の授業でも簡単に取り入れられる、楽しい演出の仕方をご紹介します。



私はこの袋に「キキ」などを入れて使っていました。子どもの興味・関心を高める手立てとして有効です。先生方も、何を入れるとより効果的か、いろいろと工夫してみてください。

まず、教師が教室の扉を開きます。手に持つのは教科書ではなく「？」がついた紙袋。教室に足を踏み入れたとたん、子どもの視線が一斉に紙袋に集中します。

袋からおもむろに「聞き名人のキキ (p.14)」を取り出し、しかけを動かします。教室が笑いと興奮に包まれ、眠気や授業のマンネリで閉じられがちだった子どもの学習の扉が、一気に開きます。

さらに、「キキ」の操作を見て「話しの聞き方」に気付いた子どもは、自分から授業に集中するようになります。



こんなふうに使います！



活用の利点と効果

- 何が現れるかわからないまほうの紙袋は、子どもの宝箱のように楽しく、授業を盛り上げます。
- 楽しいことに敏感な子どもの心理を応用し、授業に引き付けると同時に学習の効果を高めます。
- 中に入れる教材は、楽しい絵や図など、子どもの興味・関心をひくものが効果を得られます。
- 準備が簡単。紙袋に「？」を付け、子どもに伝えたい資料を紙袋に入れるだけです。

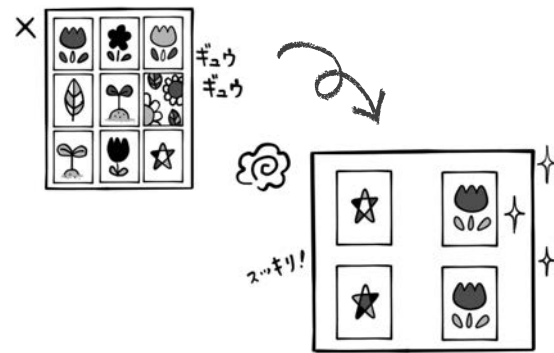
NOTE

学級における掲示の工夫

教室は、子どもが学校生活の大半を過ごす場所です。ここでは、子どもが落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、私が資料や作品を掲示する際に心がけていたことをご紹介します。

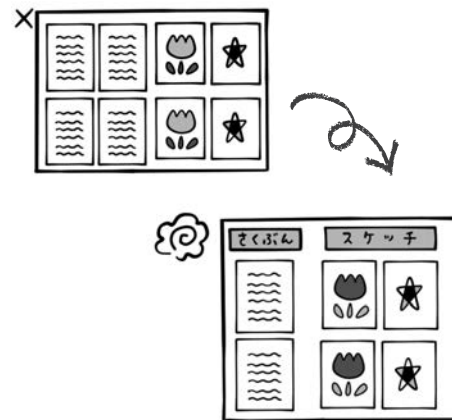
① 壁に隙間なく掲示しない

壁に隙間なく掲示するのは効果的ではありません。学習の資料などを天井の棧から掲示板の下まで隙間なく掲示すると、子どもに圧迫感を与え快適に学習できません。ですから、掲示物と掲示物の間には、窮屈な感じを与えないような空間を確保します。



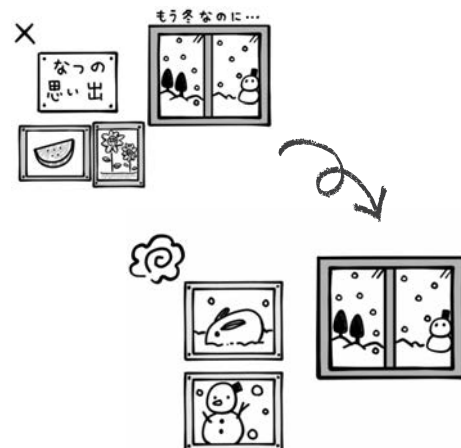
② ジャンルごとに間隔を空ける

違う資料を隣り合わせに密着して掲示すると、子どもは混乱してしまい、せっかくの資料の意味がよく伝わりません。隣の資料と区別するために、ジャンルごとに適度な間隔を空けるとよく伝わります。また、掲示物は子どもが見やすい高さに設定します。



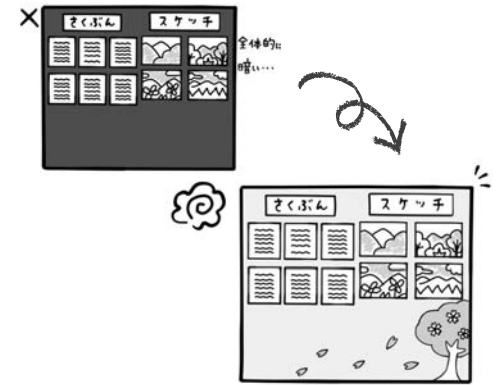
③ 長い間掲示したままにしない

特別な場合を除き、同じ物を長い間掲示しないようにします。同じ掲示物をずっとそのままにしておくと、子どもは関心をなくし、掲示物に興味を示さなくなってしまいます。変化を付けるために短期間掲示して、次の掲示物と入れ替えるようにします。



④ 色彩効果を利用する

子どもは色彩に敏感で心理的影響を受けやすいです。例えば、黄色や赤色は気持ちを高揚させ、薄いピンク色は優しい気持ちにさせます。水色や薄緑色は清々しい気持ちに、薄茶色は落ち着き、あたたかい気分にしてくれます。模造紙大で購入し、学級の実態に応じて使い分けると効果的です。



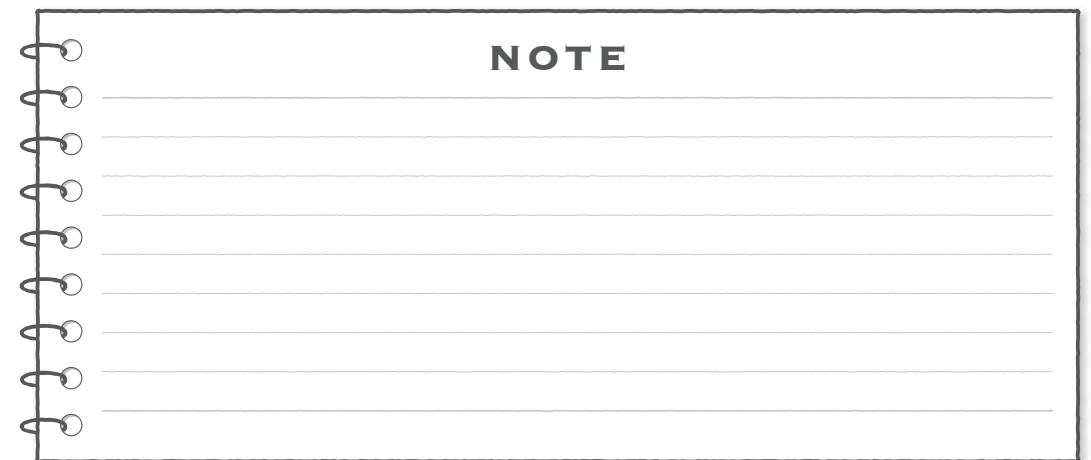
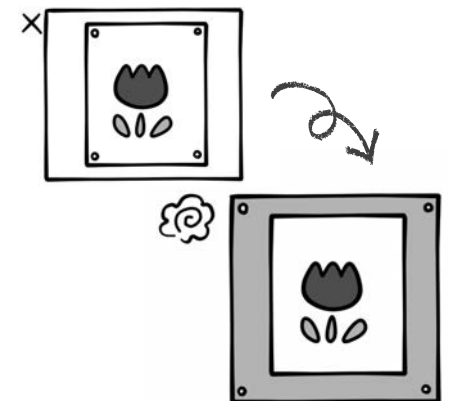
⑤ 子どもに無断で掲示しない

子どもの作品の掲示は、本人にとって成績をさらされるのと同じような気持ちになります。満足な作品ができなかったために、掲示を望んでいない子どももいます。「がんばったところを見てもらおうね」と優しく説得し、本人が納得してから掲示するようにします。



⑥ 作品は丁寧に扱う

作品は丁寧に扱い、掲示する場合は台紙に両面テープで貼り付け、台紙に画びょうを使います。作品には直接画びょうを刺さないようにします。作品を大切に扱っていることに子どもが気づくと、子どももみんなの作品を大切にようになります。大切にされていることに気付けば励みになり、学習や作品づくりの意欲も高まります。



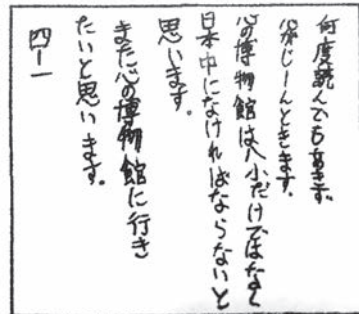
あとがきにかえて

転ばぬ先の杖

子どもの将来を案ずるのはいつの時代も同じです。私の勤務地東京都清瀬市でも、子どもたちの活動を主体とした健全育成委員会を設け、地域での活動を通して社会性を育てています。体験で得た感想を作文、ポスターなどにまとめ、私の体験主張と題して発表会を開いていますが、子どもらしい真剣な活動に頼もしさを感じます。

しかし、この純真な子どもたちが、実社会に出ても同じように活躍できるか案じられます。目まぐるしく変化する社会で、流されずに道を切り開くにはたくましい心が必要になります。また、社会の安易な風潮はミニ社会としての学校生活にも及び、学習意欲や友だち関係に様々な影響を与えています。そのような情報に振り回されないためにも、低学年のうちからよく考えて行動できる強い心を育てなければなりません。

強い心をもたせることは難しいことではありません。心の仕組みを具体化し、楽しく投げかければ容易になります。教材を楽しくつくれば児童は必ず反応します。日常の学習に役立てながら心を高めていく、楽しい教材になるよう願っています。



【プロフィール】

尾形 弘 (おがた ひろし)

1940年北海道生まれ。網走四地区学校生活協同組合・北見教材厚生部等を経て東京都清瀬市立小学校教員に。以来、学級担任及び図工専科担任を務める。その間、同市教育方法改善委員会、視聴覚教育研究会等に参加。学習意欲を高める教育環境づくりや教材開発に取り組む。また市民ぐるみの健全育成委員会の設立に参加。推進役として22年間活動に携わる。定年後も文科省指定環境教育推進モデル市の推進役を務めるが病で退職。その後、同市教育委員会非常勤指導員として復帰。心の博物館や市立全小学校に環境博物館を開設する。環境博物館づくりは継続中。清瀬市から環境教育並びに環境保全活動で表彰されるなど高い評価を受ける。

好評
発売中

日文の書籍シリーズ

総合的な学習の時間の指導法 **新刊**

～教職課程コアカリキュラム対応 大学用テキスト 理論と実践の融合～



2019年度から教職課程を有する大学・短大で必修化される「総合的な学習の時間の指導法」。本書は、「総合的な学習の時間」の理論と全国各地の優れた実践を紹介した教育現場待望の一冊。大学での使用はもちろん、教員研修など現場の先生方にも最適。

編著 大学テキスト開発プロジェクト

定価 **2,484**円(本体2,300円+税8%)

B5判 207頁 ISBN 978-4-536-60106-1

発行 日本文教出版

日文生活科 LINE@

— 友達募集中!! —

生活科を中心に、普段の学級指導など学習活動全般に活用できるお役立ち情報、文科省情報、日文新刊情報などを皆さんにお届けします!



※QRコードを読み取るか、ID検索(@cgb2851p)で登録してください。